

組織躍進の秘密にせまる

文京支部

20年ぶり青年部復活



青年部書記長の菅沼さん

【文京・書記・太田至豪通信】世代技能者結集のさきがけへ。文京支部青年部の拡大スローガンです。ちなみに「さきがけ」は支部青年部結成当初の愛称でした。文京支部では2022年4月の定期

4分会で部長を選出
「業界変えたい」熱い思い

大会で20年ぶりに青年部長が選出されました。それまで「チャレ助」をきっかけに若干名の事業所従業員が青年部員として登録されていましたが、青年部としての活動は長い間ありませんでした。

転機が訪れたのは2021年の6月。現部長の飯塚恵美さん（鉄骨とび）が加入相談で事務所にやってきたことです。当時、飯塚さんは法人設立の準備を進めており、頻繁に組合事務所を訪れていました。その中で女性でも働きやすい建設業にしたい、建設業の古いイメージを刷新したいなど、地元文京区で自分ができることがあればという熱い想いを聞き、青年部の部長を打診、9月の支部執行委員会で確認されました。コロナ禍ではありましたが、2021年度は青年部全都リポート交流会に初参加の部員4人とともに参

講師団養成の取組で

青年部員の3人が大活躍

部長が選出されています。春に行なわれた技術研修センターの講師団養成の取組

加。杉並支部主催の福島ボランティアにも後継者部員たちと参加し、まずは交流を図ることができました。2022年度の支部定期大会では、飯塚さんを正式に青年部長として選出することに合

みでは青年部員が大活躍しました。なかなか講師希望者が集まらず、支部開催の困難さを感じていたときに、前年の青年部全都リポート交流会に参加した、青年部書記長の菅沼太一さん（橋梁とび）が受

講を快諾してくれ、さらに所属事業所の従業員2人（2人とその後継者世代）まで連れてきてくれました。特別教育の支部開催ができるようになった結果、受講者数は前年比5・6倍の118人となり、多くの仲間の受講を後押ししました。



拡大訪問時の鈴木さん（右）

会の要請に応じて分会青年部長を引き受けてくれました。秋の拡大月間、「仕事と暮らしアンケート」を文京支部では後継者世代対象の取り組みとしました。鈴木さんは所属する分会の仲間とともに対象者を100%訪問、アンケート回収率90・5%という驚異的な働きをしました。やはり同世代の親しみやすさがあったのかと思います。

2022年の福島ボランティア（杉並支部主催）には、青年部から鈴木さんと林拓馬さん（設計）が2人で参加しました。このほか分会役員と

20年の時を経て、動きはじめた文京支部青年部の再建。来年の今頃には青年部がどんなことになっているのかと考えると、とても楽しみです。部員たちそれぞれが次世代技能者結集のさきがけとなりますように。

青年部員の交流会を開いた分会もあります。正直、青年部員たちが、こんなにもたくさん活動に参加することになるとは想像していませんでした。飯塚部長が現れて、軸ができたことが大きな要因ですが、鈴木さんは「役員さんにもやさしく接してもらって、できることがあれば協力したいと思って」とのこと。やはり人との交流が組合と青年部員をつないでいます。

墨田支部

目標達成と年間実増



間船組織部長と藤川委員長（右）

絶好調だった拡大月間
「相乗効果」で減らさず増やす

春、秋ともに絶好調だった墨田支部の拡大月間。目標達成とあわせて目を見張るのはその実増率です。春は全都で唯一1%を超える1・55%。



組織担当書記の長妻さん

秋は月間終了時点で3・32%という驚異的な数字となりました。そして、加入の理由が多岐に渡るのも特徴です。建設キャリアアップシステム（CCUS）、資格取得、労災加入、市町村国保からの切り替えなど、春秋の総括の中ではともにその点が触れられ、諸運動との相乗効果も語られました。脱退を出さずに仲間をふやしていく墨田支部の拡大。その秘訣を探ろうと12月

14日に行なわれた支部の組織部会を取材しました。間船元組織部長、藤川善清委員長、各分会の組織部長が参加する中、長妻伸治組織担当書記の進行で部会が進められました。冒頭に、2008年以来14年ぶりととなる「春・秋支部目標達成&全分会達成」についてあらためて報告。そして、この月間の特徴とともに「顔の見える関係づくりの実践と事業所へのアプローチ」について分会より報告を求めました。

事業所との低い垣根

CCUS、石綿給付金でも加入

各分会から語られたことから得た特徴は、まず事業所と地域分会の垣根が低いことです。日頃、地域分会からコミ

年間の加入理由をみると、厚生年金が多いのは予想通りですが、CCUSによる加入

ユニケーションを取っている、積極的に取ろうとしていることがうかがえました。また、好成绩の立花分会は、担当書記の奮闘をねぎらいつつ、分会四役の電話を含めたこまめな声かけをその勝因としてあげていました。そして、もうひとつの特徴は、住宅デーをはじめとした地域との共同イベントが取り組まれていることです。直接的に「ふえる」効果は期待していないものの、これを続ければ次につながる、方向性はこれでいいとの確信が感じられました。

墨田区で培った「土建ブランド」

墨田支部と言えば、地域防災の取り組みなどで培った自治体との結びつきの強さも特徴です。その墨田での土建ブランドの効果を「行政との近さが未加入者にも安心感につながっている」と藤川委員長も語ります。日頃の積み重ねで開いた墨田支部の花は、今年も開きそうです。

結集のさきがけに

今年も福島に2人が参加

拡大月間にも青年部員が参加しています。鈴木涼太さん（電工）は春の拡大月間で分

会の要請に応じて分会青年部長を引き受けてくれました。秋の拡大月間、「仕事と暮らしアンケート」を文京支部では後継者世代対象の取り組みとしました。鈴木さんは所属する分会の仲間とともに対象者を100%訪問、アンケート回収率90・5%という驚異的な働きをしました。やはり同世代の親しみやすさがあったのかと思います。

20年の時を経て、動きはじめた文京支部青年部の再建。来年の今頃には青年部がどんなことになっているのかと考えると、とても楽しみです。部員たちそれぞれが次世代技能者結集のさきがけとなりますように。